



授業研究を一步先へ!

実践事例の紹介～吉備中央町立大和小学校の取組～

©県「ももっち・うらっちと仲間たち」

学力向上担当者通信 NO.12「授業研究を一步先へ!」では、授業研究を充実させる取組として、「授業研究の最後5分で、次の日からの取組を一人ひとりが決めることから始めませんか?」と発信しました。

このことを受けて、早速、授業研究のサイクルを回す工夫に取り組んだ学校が複数ありました。今号では、その中の一つである吉備中央町立大和小学校の取組を紹介します。

取組を始めたきっかけ



研究主任 池田 教諭

本校では、以前から校内研修やOJTで、授業研究の学習指導案検討等を行っていたものの、**それぞれが「ぶつ切り」の授業研究になっており、学校全体としてPDCAサイクルが回っていないところがある**と感じていました。

そんなときに、教育事務所の方から、授業研究の協議の最後5分で自分がこれからする取組を決めてはどうかという提案とワークシート(「ちょい☆チャレ!」シート)の紹介を受け、授業に携わる全ての教員に加え、管理職、養護教諭を含めて、全校で実践してみることにしました。

実際の取組

「ちょい☆チャレ!」シート (例) ※データを別添

① Plan

授業研究の協議の最後5分で、各教員が、**明日からの取組を考えてシートに記入する。**



各自が書いたシートを職員室に掲示し、いつでも、誰でも見えるようにする。

② Do

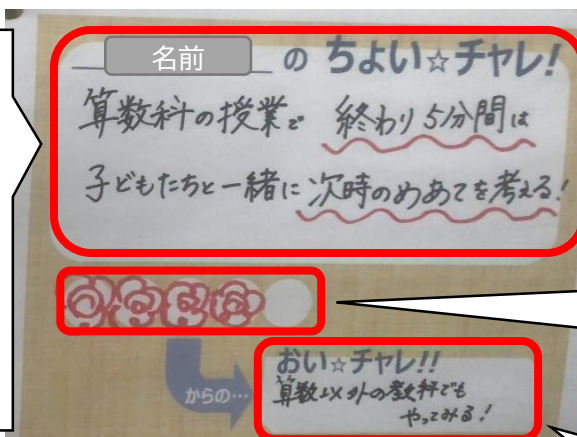
自分で決めた取組を**継続的に実践する。**

③ Check

取組を振り返り、取組が達成できたかどうかの**自己評価を継続的に行う。**

④ Action

達成状況に応じて、**更に実践してみたい取組を設定する。**



シートを書いた先生のコメント

授業の終わりに次の時間のめあてを考えるようにしていると、家庭学習で児童が予習をしてくるようになりました。**毎時間「ちょい☆チャレ!」を意識することで、自分の指導力の高まりと、児童の学習改善へのつながりを実感できました!**



大和小では、授業研究の度に③・④を行う機会を設定しています。

校内の教員の声



武内 講師

自分のしたい取組を書き、それを周りの先生にも見てもらえることで、取組への意識が高まり、取組を継続して実践できています。

シートがきっかけになり、若手の先生と授業について話をする機会が増えました。職員同士が授業を通してつながることができています。



金盛 校長

取組を始めて間もないですが、先生たちが主体的に実践を工夫していることが分かります。今後は、校内研究に関連する共通テーマを設定し、それぞれの先生がテーマに向けた取組を実践するなど、さらに効果的な活用を考えたいです。

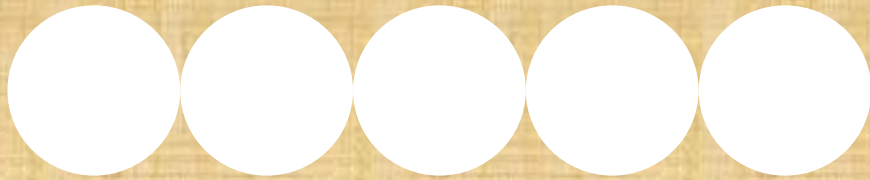


教務主任 堤 主幹教諭



一人ひとりが「書いた」取組を、職員室に掲示していつでも「見える」ようにすることで、常に意識化された取組となり、学校全体での共有化によって、授業改善について語り合う風土の醸成につながった好事例だね。また、短期の授業改善が進むことで、子どもたちの変容にも気づきやすくなるんだね。

_____の ちよい☆チャレ!



おい☆チャレ!!